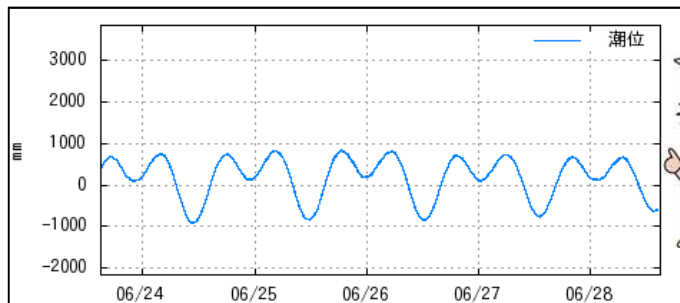


●第12回 「験潮（けんちょう）」

夏休みに海水浴に行くんだ！海で夢中になって遊んでいると、海の高さがどんどん変わっていくよね。どうしてだろう？



伊東験潮場（静岡県）の海面変化の様子（大潮の時）

海は1日に2回深くなったり浅くなったりするんじゃないよ。海の高さについて、色々聞いてみよう！

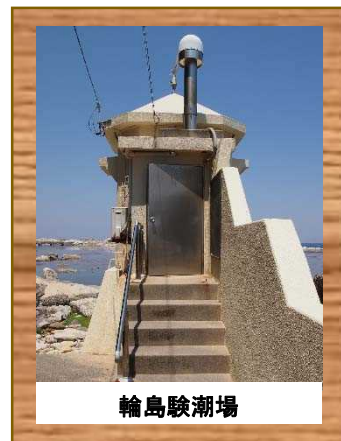
もうすぐ夏休みですね。夏休みには海に行く人も多いと思います。みなさんは海に行ったときに、さっきまで陸だった場所が海の中に沈んでしまい驚いた経験はありませんか？そう、海の高さは一定ではないのです！1日に2回、高くなったり低くなったり規則的に変化していて、この変化は月や太陽の引力や遠心力によって引き起こされています。その大きさは月や太陽の位置によっても変化していて、高さの変化の大きなとき（大潮：おおしお）と小さなとき（小潮：こしお）があります。日本の太平洋側では大潮の時の海面が一番高いときと低いときの差が約1.5mもあるんですよ！皆さんの背よりも大きいかもしれないですね。

このようにいつも変化している海面ですが、長い年月をかけて測り続け、平均すると一定の高さになります。これを平均海面（へいきんかいめん）といいます。日本では、土地の高さの基準（標高が0mになる場所）となる平均海面を決めるため、海面を測り続けています。

海面の上がり下がり測ることを「験潮（けんちょう）」と言い、験潮を行う施設を験潮場（けんちょうじょう）と言います。験潮場は日本全国に25箇所あり、北から南まで、日本の周りの海面の様子を測っているのです。

現在、国土地理院にはいろいろな最新技術がありますが、この「験潮」はなんと100年以上前の明治時代から行われてきた歴史ある技術です。長い間、日本の高さの基準を決めるために測り続けてきた験潮場のうち、輪島験潮場（石川県）が2016年に国土地理院の測量標（そくりょうひょう：測量に使われる標識のこと）として初めて「登録有形文化財（建造物）」にもなりました。

またこの験潮場ですが、最近では高さの基準を決めるだけでなく、地球温暖化による海面上昇の研究や津波の監視にも利用されています。験潮場で観測した潮位データは国土地理院のホームページで公開しているので、海に行く前や日本の周りの海面がどのような状態か気になった時には、ぜひチェックしてみてくださいね。【http://www.gsi.go.jp/kanshi/tide_furnish.html】（測地観測センター）



輪島験潮場